

船橋市リハビリセンター
平成28年度事業報告書

指定管理者：医療法人社団輝生会

目次

I	管理の実施状況	1
1	センター基盤の整備	1
	(1) 組織編成	1
	(2) 情報システムの構築	2
	(3) 職員の資質向上	2
2	サービス機能	2
	(1) 職員配置	2
	(2) 提供したサービス	3
3	地域連携・ネットワーキング	4
	(1) 回復期病棟を持つ病院との連携	4
	(2) 医師会との連携	4
	(3) 地域の診療所や介護サービス事業者との連携	4
II	利用状況	6
1	外来患者	6
	(1) 外来患者数	6
	(2) 月別外来患者（延べ人数）内訳	6
	(3) 年齢別・男女別外来患者内訳	8
	(4) 疾患別外来患者内訳	9
	(5) 地域別外来患者内訳	9
2	通所リハビリテーション利用者	11
	(1) 通所リハビリテーション利用者数	11
	(2) 月別通所リハビリテーション利用者（延べ人数）内訳	11
	(3) 年齢別・男女別通所リハビリテーション利用者内訳	12
	(4) 疾患別通所リハビリテーション利用者内訳	12
	(5) 介護度別分類	13
	(6) 地域別通所リハビリテーション利用者内訳	13
3	訪問リハビリテーション利用者	15
	(1) 訪問リハビリテーション利用者数	15
	(2) 月別訪問リハビリテーション利用者（延べ人数）内訳	15
	(3) 年齢別・男女別訪問リハビリテーション利用者内訳	16
	(4) 疾患別訪問リハビリテーション利用者内訳	16
	(5) 介護度別分類	17
	(6) 地域別訪問リハビリテーション利用者内訳	18
4	訪問看護利用者	19
	(1) 訪問看護利用者数	19

(2) 月別訪問看護利用者（延べ人数）内訳	19
(3) 年齢別・男女別訪問看護利用者内訳	20
(4) 疾患別訪問看護利用者内訳	20
(5) 介護度別分類	21
(6) 地域別訪問看護利用者内訳	22
5 地域リハビリテーション拠点事業	23
6 リハビリ事業	23
(1) パワーリハビリ教室	23
(2) パワーリハフォロー	24
(3) プールリハビリ	24
III 収支状況	26
IV 中期目標の達成状況及び中期行動計画の実施状況報告	28
(1) 目標1 利用者アンケートによる患者満足度（外来患者について）	28
(2) 目標2 各利用者がリハビリテーションマネジメントにおいて設定した目標の 達成率	30
(3) 目標3 通所リハビリ利用者について（介護福祉士の占める割合）	32
(4) 目標4 利用者に直接提供する職員のうち、勤続年数3年以上の者の占める割 合100分の30以上	33
(5) 目標5 利用者アンケートによる患者満足度（通所リハビリ利用者について）	34
(6) 目標6 各利用者がリハビリテーションマネジメントにおいて設定した目標の 達成率	36
(7) 目標7 利用者に直接提供する理学療法士・作業療法士又は言語聴覚士のうち、 勤続年数3年以上の者の占める割合100分の30以上	38
(8) 目標8 利用者アンケートによる患者満足度（訪問リハビリ利用者について）	39
(9) 目標9 利用者アンケートによる患者満足度（訪問看護利用者について）	41
(10) 目標10 利用者アンケートによる患者満足度（リハビリ事業利用者について）	42
(11) 目標11 財務内容の改善に関する事項（診療所）	44
(12) 目標12 財務内容の改善に関する事項（訪問看護）	46
(13) 目標13 地域リハビリテーション拠点事業	47

（資料）

資料1 組織図	資料7 訪問看護アンケート
資料2 センター内外の研修・学会	資料8 リハビリ事業アンケート
資料3 地域リハビリテーション拠点事業実績	資料9 地域リハビリテーション拠点事業 アンケート
資料4 外来患者アンケート	
資料5 通所リハビリテーションアンケート	
資料6 訪問リハビリテーションアンケート	

I 管理の実施状況 管理の実施状況

1 センター基盤の整備

(1) 組織編成

リハビリセンターの組織編成は、センター長を補佐する役割として、副センター長を配置した。以下、クリニック部門、サポート部門、船橋市委託事業部門の3つのセクションを配置し、それぞれの部門においてセンターの基本となるクリニック事業（外来リハ・通所リハ・訪問リハ）、リハビリ事業（パワーリハビリ教室・フォローアップ・プールリハビリ）、地域リハビリテーション拠点事業、職員の資質向上、事務の業務を担当し、医療安全、個人情報保護等センターを運営する上での個別の重要事項については、専門の委員会が担当する体制とした。各事業と主な委員会の役割は次のとおり。（資料1 組織図）

A クリニック事業

クリニックは、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護福祉士が所属し、外来・通所・訪問リハビリテーションの患者の診療及びリハビリテーションを担当した。

B リハビリ事業（パワーリハビリ教室・フォローアップ・プールリハビリ）

リハビリ事業は、理学療法士、健康運動指導士を配置し、利用者の筋力マシンを使用するトレーニングの相談やアドバイス、プールリハビリの水中歩行訓練等を担当した。

C 地域リハビリテーション拠点事業

地域リハビリテーション拠点事業は、ソーシャルワーカーを配置し、リハビリについての啓発活動、リハビリ関係者の育成、医療及び介護の連携強化、リハビリの実態把握、リハビリの総合相談を担当した。

D サポート部

サポート部は、事務職が所属し、医療事務、総務・人事、施設管理、患者サービスの向上及び、職員の働きやすい環境作りを担当した。

F 主な委員会の担当事項

① 医療安全委員会及び感染対策委員会

医療安全委員会は、センター内における事故を防止し、安全かつ適切に業務遂行できる体制を確立した。センター内で起こる「ヒヤリハット」報告に対して検討し、事故を未然に防ぐべく対策を提案した。KYT勉強会を実施した。感染対策委員会は、センター内における細菌、微生物、ウイルス等の感染防止対策を推進し、院内衛生管理の万全を期した。感染予防に対する意識を高めるため、手洗いキットを使用し、自らの手洗い方法を見直す機会を設けた。ノロウイルス感染対策として、嘔吐があった場合の対応について、動画を交えた勉強会を実施した。

② 個人情報保護委員会及び診療情報開示検討委員会

個人情報保護委員会は、患者等の個人情報の取り扱い・保護・管理・委託・苦情・相談等を審議した。診療情報開示検討委員会は、診療情報の提供・開示の具体的方策及び、実施要綱などの運営上の問題点等を協議するとともに、センター長からの諮問により開示申請者の適否・開示情報の範囲、開示の可否について審査する体制を整えている。

③ サービス向上委員会

患者のアメニティーの向上・苦情対応は、サービス向上委員会が担当した。苦情対応として、御意見箱を設置し、患者等の苦情に対応する体制を整えた。生花の配置、患者満足度調査等を行った。接遇向上を目指して、各スタッフの接遇に対する意識を共有するため、朝礼の際にスピーチする機会を設けた。また、センター運営の透明性を確保するため、センター内の情報を公開して、事業内容を刊行物にて提供した。

(2) 情報システムの構築

リハビリセンタークリニックで行う診療はチームで行ない、電子カルテシステムを導入し、患者の状況・治療の目標等の患者情報を共有している。この電子カルテにより、患者情報が一元化され、チームスタッフが患者とその家族との面談の際に必要な情報提供にも寄与した。

(3) 職員の資質向上

効果的なリハビリテーションの提供には、患者本人から機能回復の意欲を引き出し高いモチベーション（動機付け）をもって主体的にリハビリテーションを行うことができる環境づくりが重要である。その中で、職員の対応は最も重要となる。

このことから、職員には当法人の基本理念、診療方針、患者の基本的な権利等を理解し行動できるよう研修を行った。また、当院が提供するリハビリテーションの理解を深めるため、病院の概要、診療システム、各部門の業務体制についても研修を行った。

職員には全体会議や朝のミーティングを通じて、社会人や大人としての礼儀作法・身だしなみ、言葉遣い等の接遇に関する研修を行うなど意識付けを行った。

(資料2 センター内外の研修・学会)

2 サービス機能

(1) 職員配置

区分	平成28年度
院長兼医師	1
副センター長	1
チームマネジャー（看護師）	1
チームマネジャー（作業療法士）	1

看護師	5 (2)
ケアワーカー	2 (1)
理学療法士	10 (2)
作業療法士	4
言語聴覚士	1
ソーシャルワーカー	1
健康運動指導士	2 (1)
サポート部(事務)	5 (1)
運転手	5 (5)
総計	39 (12)

() 内非常勤職員数

(2) 提供したサービス

ア) 外来リハビリテーション

通院による外来リハビリテーションを提供した。混雑した場合には個別リハビリテーションが十分に提供できなくなることからサービスの提供は予約制とした。また、リハビリテーション科の医師の診察等には一定以上の時間を要することから初回受付も予約制とした。

イ) 通所リハビリテーション

利用者が可能な限り居宅においてその能力に応じ、生活機能の維持・向上を積極的に図り、要支援・要介護状態の予防及びその重症化の予防、軽減ができるよう介護（予防）通所リハビリテーションサービスを提供した。対象は要支援1・2もしくは、要介護1から5の方とし、個別リハ（理学療法・作業療法・言語聴覚療法）の実施に加えて自主トレーニングを行う時間を設け、1回およそ70分で行った。

ウ) 訪問リハビリテーション

利用者の心身の特性を踏まえて、全体的な日常生活活動の維持、回復を図るとともに、生活の質の確保を重視した在宅療養が継続できるように訪問リハビリテーションを通じた支援を行った。サービス提供に当たっては、ケアマネジャーを始め、関係自治体、地域の保健・医療・福祉サービスとの密接な連携を図った。

エ) 訪問看護ステーション

利用者の心身の特性を踏まえて、個々に応じたケアを実施することで心身の活力を維持し、より安全な在宅療養生活を送れるよう支援した。また、サービスの特性から地域におけるニーズとして、24時間・緊急時への対応が求められていることから、利用者が24時間安心して生活を送れるように24時間の緊急時の対応を行った。サービスの提供に当たっては、ケアマネジャーを始め、関係自治体、地域の保健・医療・福祉サービスとの密接な連携を図つ

た。

オ) 地域リハビリテーション拠点事業

地域リハビリテーションの普及を図る目的から、リハビリ関係者向け講演会として研究大会（年2回）、リハビリ関係者向け研修会として介護職員向け勉強会（年10回）・地区勉強会（年3回）・摂食栄養サポート勉強会（年2回）の計15回を実施し、市民向け講演会（年2回）、市民向け研修会（年2回）を実施したほか、センターパンフレット・地域リハビリ推進用リーフレット・センター刊行物の作成及び配布、ホームページ運営、生活期リハに関する調査研究報告（3回）を行った。

（資料3 地域リハビリテーション拠点事業実績）

カ) リハビリ事業

増加する事業利用者の安全確保のため、予約システムの導入について検討しつつ、下記事業を実施した。

① パワーリハビリ教室

市内の身体機能の低下した高齢者等に対し、要介護状態等の予防や軽減、また、自立した生活をできるだけ実現すること等を主な目的として実施した。

② パワーリハビリフォローアップ

パワーリハビリ教室終了後の健康維持・体力作り、仲間との交流などを主な目的として実施した。

③ プールリハビリ

水がもつ特性を活かし、下半身への負担を軽減しながら高齢者の体力及び筋力の維持を目的として実施した。

3 地域連携・ネットワーキング

(1) 回復期病棟を持つ病院との連携

回復期病棟を持つ近隣の医療機関に出向き、必要な市民が円滑にリハビリテーションサービスを受けられるよう情報交換を行った。

(2) 医師会との連携

クリニックやリハビリ事業を利用する患者・利用者を通じてかかりつけ医との連携を図った。リハビリセンター刊行物を発行し、医師会郵送物に同封してもらい、会員にリハビリテーション及びリハビリセンターの周知を図った。

(3) 地域の診療所や介護サービス事業者との連携

① 近隣医療機関に出向き、情報交換を行った。

② 「船橋在宅医療ひまわりネットワーク 地域リハ推進委員会」と連携し、地域リハビリテーション拠点事業の実施に反映させた。

③ 「船橋在宅医療ひまわりネットワーク役員会」に出席し、関係団体として協力した。また、S W及び看護師が「顔の見える連携作り委員会」に参加

し、「船橋市における在宅医療・介護連携の心得」説明会で説明するなど会の運営に協力した。

- ④在宅医療支援拠点事業 運営委員会に出席し、運営に協力した。
- ⑤船橋市ソーシャルワーカー連絡協議会に参加し、会員である市内外のSWと情報交換を行った。
- ⑥「船橋市通所リハビリテーション連絡会」「船橋市回復期リハビリテーション病棟連絡会」と連携をはかり、会の運営に協力した。

リハビリテーション総合相談件数

(重複あり)

	センター事業に関する相談			センター以外に関する相談 ※	訪問看護に関する相談
	クリニック事業に関する相談	リハビリ事業に関する相談	その他		
平成28年4月	37	0	0	1	0
平成28年5月	33	2	1	4	0
平成28年6月	37	1	1	1	0
平成28年7月	24	3	0	2	0
平成28年8月	31	2	2	2	0
平成28年9月	18	1	0	1	1
平成28年10月	19	3	0	2	0
平成28年11月	35	7	1	5	0
平成28年12月	25	1	1	0	2
平成29年1月	30	1	0	3	0
平成29年2月	39	9	0	2	1
平成29年3月	48	6	0	0	0
計	376	36	6	23	4

※センター以外に関する相談の内容

- ・回復期リハ病院の入院条件について
- ・ALSの方からの排泄に関する相談について
- ・ALSの方からの書字用自助具に関する相談について
- ・市外の方のプールリハビリに関する相談について

II 利用状況

船橋市リハビリセンターにおける平成28年度の利用実績は以下の通りである。

1 外来患者（一般診療・リハビリテーション）

(1) 外来リハビリテーション患者数 (単位：人)

	実患者数	延べ患者数
計	96	3,264

(2) 月別外来患者（延べ人数）内訳

診療日数	258
------	-----

①外来リハビリテーション実績 (単位：人)

区分	新規（初診）	再診	計
平成28年4月	4	276	280
平成28年5月	4	285	289
平成28年6月	4	280	284
平成28年7月	5	292	297
平成28年8月	3	301	304
平成28年9月	7	297	304
平成28年10月	2	289	291
平成28年11月	4	274	278
平成28年12月	2	244	246
平成29年1月	3	224	227
平成29年2月	3	192	195
平成29年3月	10	259	269
合計	51	3,213	3,264
1日平均患者	0.2	12.5	12.7

②一般診療実績（通所リハビリテーション利用者への診察） (単位：人)

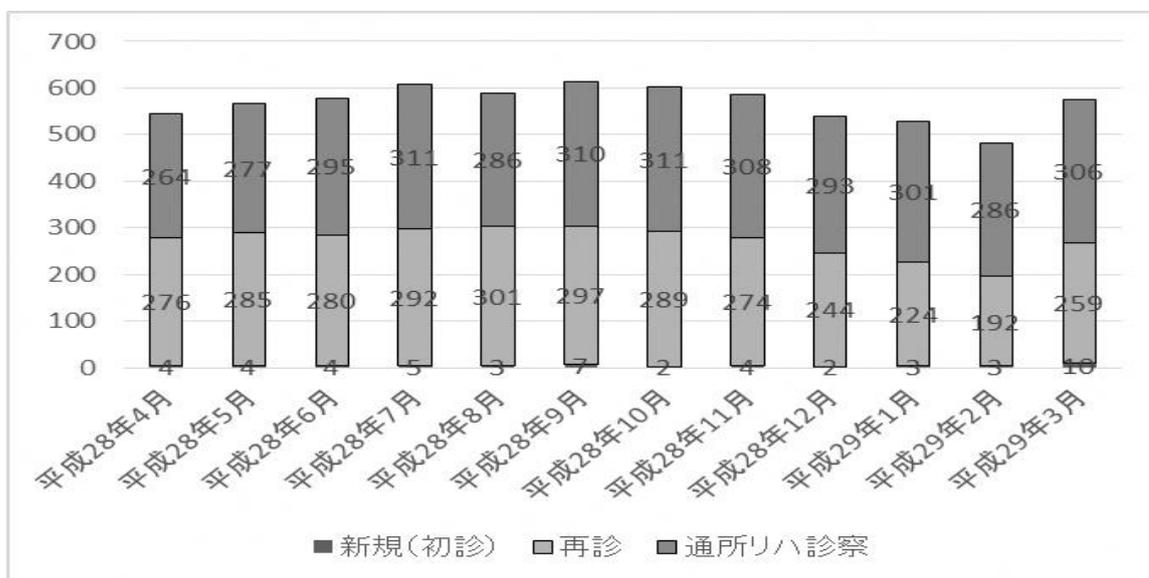
区分	通所リハ診察
平成28年4月	264
平成28年5月	277
平成28年6月	295
平成28年7月	311
平成28年8月	286
平成28年9月	310
平成28年10月	311
平成28年11月	308
平成28年12月	293
平成29年1月	301

平成29年2月	286
平成29年3月	306
合計	3,548
1日平均患者	13.8

③外来診療実績（①+②）

（単位：人）

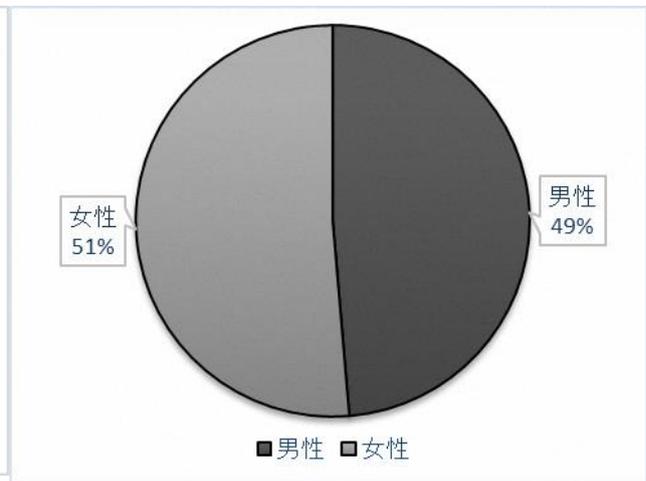
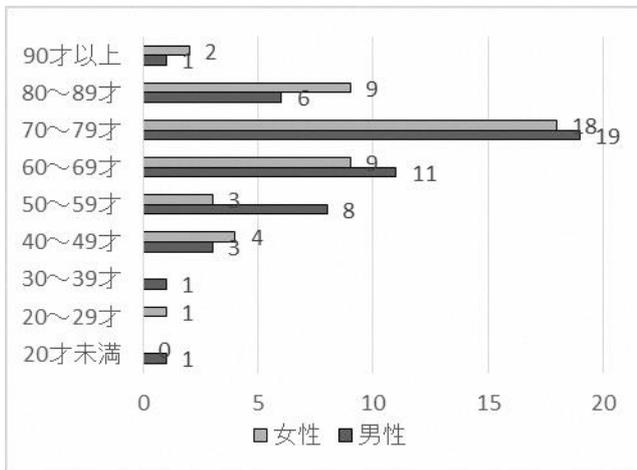
区分	新規（初診）	再診	通所リハ診察	計
平成28年4月	4	276	264	544
平成28年5月	4	285	277	566
平成28年6月	4	280	295	579
平成28年7月	5	292	311	608
平成28年8月	3	301	286	590
平成28年9月	7	297	310	614
平成28年10月	2	289	311	602
平成28年11月	4	274	308	586
平成28年12月	2	244	293	539
平成29年1月	3	224	301	528
平成29年2月	3	192	286	481
平成29年3月	10	259	306	575
合計	51	3,213	3,548	6,812
1日平均患者	0.2	12.5	13.8	26.4



(3) 外来リハビリテーション年齢別・男女別外来患者内訳

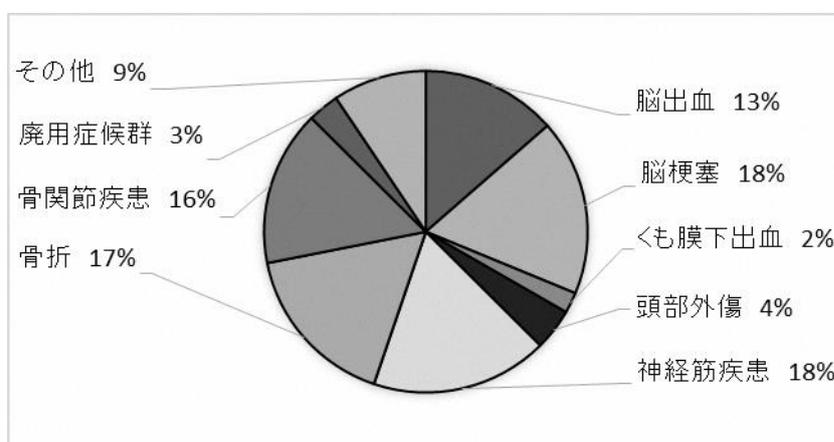
(単位：人)

年齢	男性	女性	合計	構成割合
20才未満	1	0	1	1.04%
20～29才	0	1	1	1.04%
30～39才	1	0	1	1.04%
40～49才	3	4	7	7.29%
50～59才	8	3	11	11.46%
60～69才	11	9	20	20.83%
70～79才	19	18	37	38.54%
80～89才	6	9	15	15.63%
90才以上	1	2	3	3.13%
合計	50	46	96	100.00%
平均年齢	67.5	71.2	69.2	



(4) 外来リハビリテーション疾患別外来患者内訳

疾患名	患者数	構成割合%
脳出血	13	13.54%
脳梗塞	17	17.71%
くも膜下出血	2	2.08%
頭部外傷	4	4.17%
神経筋疾患	17	17.71%
骨折	16	16.67%
骨関節疾患	15	15.63%
廃用症候群	3	3.13%
その他	9	9.38%
合計	96	100.00%



(5) 外来リハビリテーション地域別外来患者内訳

地域	患者数	構成割合%
船橋市前原	16	16.67%
船橋市飯山満町	12	12.50%
船橋市二宮	6	6.25%
船橋市芝山	6	6.25%
船橋市習志野台	6	6.25%
船橋市三山	4	4.17%
船橋市田喜野井	3	3.13%
船橋市金杉	3	3.13%
船橋市滝台	3	3.13%
船橋市二和東	3	3.13%
船橋市薬円台	2	2.08%
船橋市習志野	2	2.08%
船橋市駿河台	2	2.08%

船橋市坪井東	2	2.08%
船橋市宮本	1	1.04%
船橋市湊町	1	1.04%
船橋市七林町	1	1.04%
船橋市咲が丘	1	1.04%
船橋市新高根	1	1.04%
船橋市中野木	1	1.04%
船橋市高野台	1	1.04%
船橋市印内	1	1.04%
その他県内	17	17.71%
その他県外	1	1.04%
合計	96	100.00%

2 通所リハビリテーション利用者数

(1) 通所リハビリテーション利用者数 (単位：人)

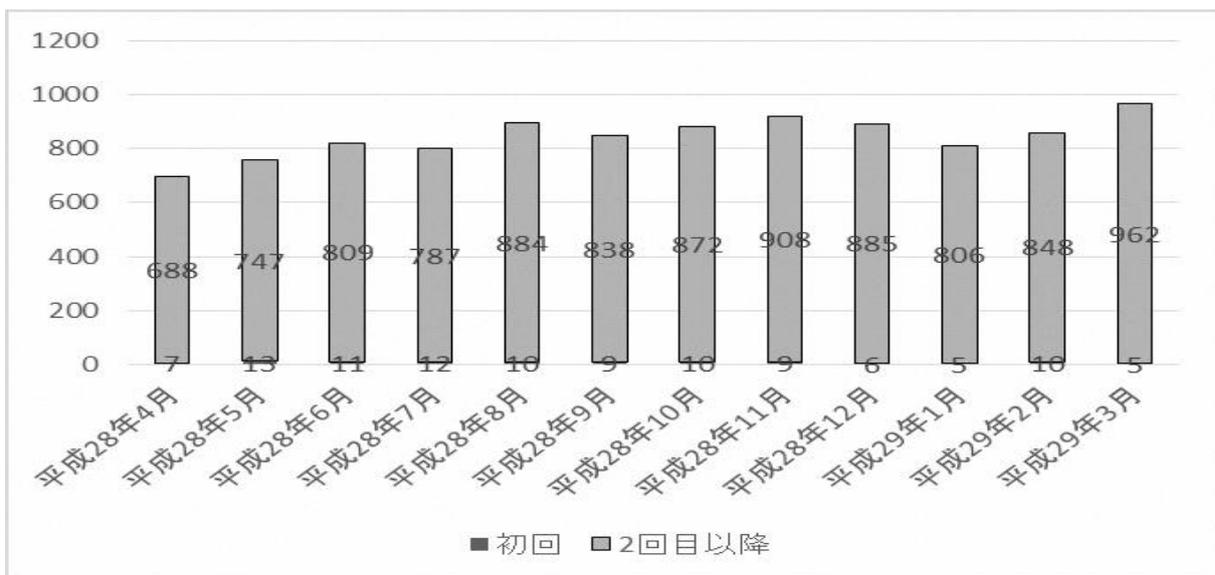
	実利用者数	延べ利用者数
計	243	10,141

(2) 月別通所リハビリテーション実績 (延べ人数) 内訳

診療日数	258
------	-----

(単位：人)

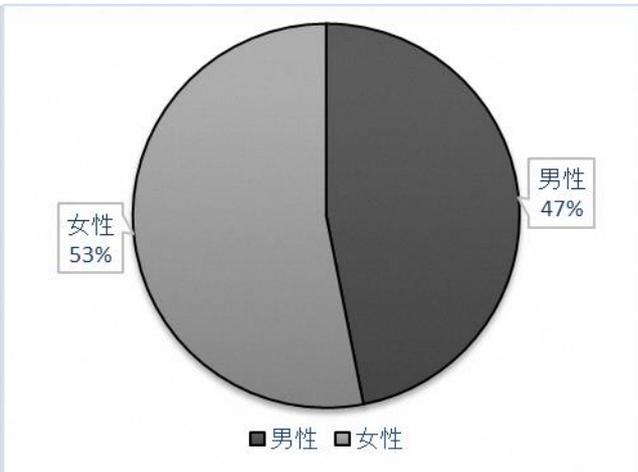
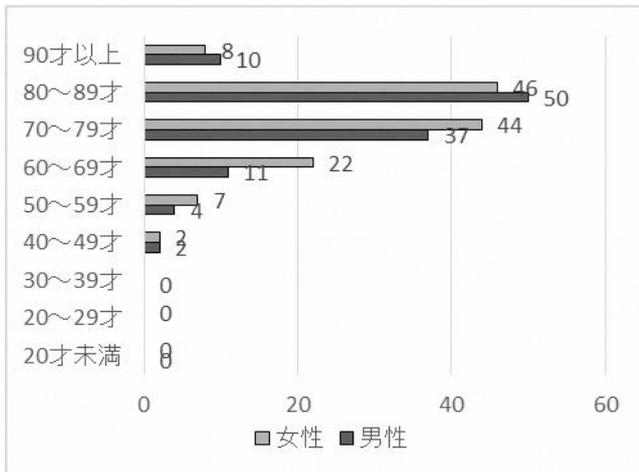
区分	初回	2回目以降	計
平成28年4月	7	688	695
平成28年5月	13	747	760
平成28年6月	11	809	820
平成28年7月	12	787	799
平成28年8月	10	884	894
平成28年9月	9	838	847
平成28年10月	10	872	882
平成28年11月	9	908	917
平成28年12月	6	885	891
平成29年1月	5	806	811
平成29年2月	10	848	858
平成29年3月	5	962	967
合計	107	10,034	10,141
1日平均患者	0.4	38.8	39.3



(3) 年齢別・男女別通所リハビリテーション利用者内訳

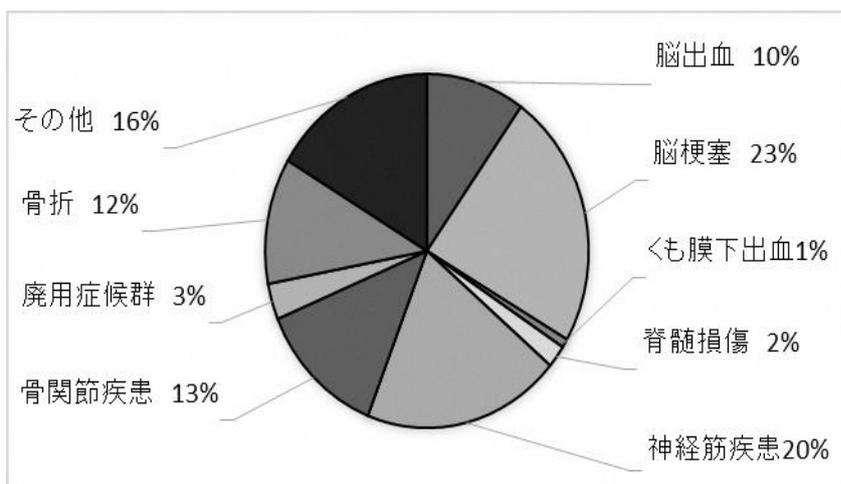
(単位：人)

年齢	男性	女性	合計	構成割合
20才未満	0	0	0	0.00%
20～29才	0	0	0	0.00%
30～39才	0	0	0	0.00%
40～49才	2	2	4	1.65%
50～59才	4	7	11	4.53%
60～69才	11	22	33	13.58%
70～79才	37	44	81	33.33%
80～89才	50	46	96	39.51%
90才以上	10	8	18	7.41%
合計	114	129	243	100.00%
平均年齢	76.2	78.7	77.4	



(4) 疾患別通所リハビリテーション利用者内訳

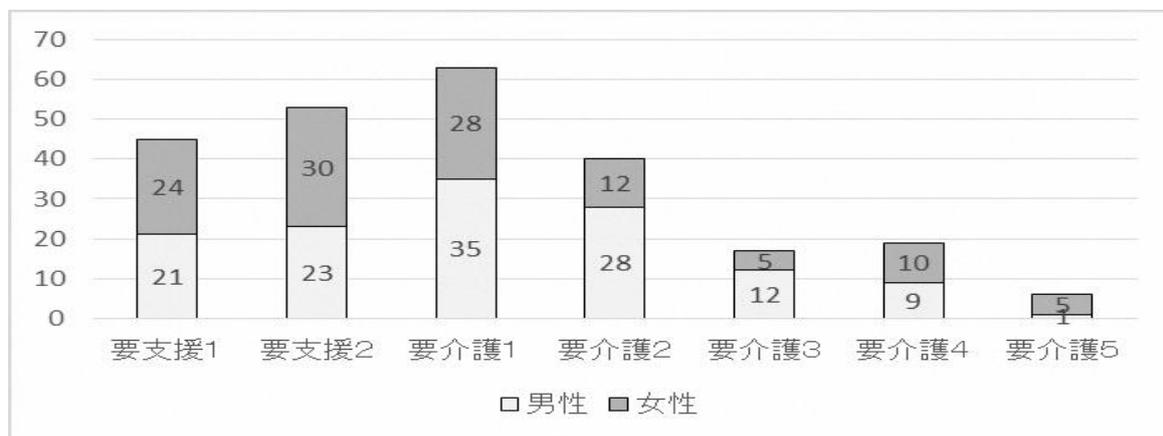
疾患名	利用者数	構成割合
脳出血	24	9.88%
脳梗塞	57	23.46%
くも膜下出血	2	0.82%
頭部外傷	0	0.00%
脊髄損傷	5	2.06%
神経筋疾患	48	19.75%
脳腫瘍	0	0.00%
骨関節疾患	31	12.76%
廃用症候群	8	3.29%
骨折	28	11.52%
その他	40	16.46%
合計	243	100.00%



(5) 介護度別分類

(単位：人)

	男性	女性	合計	構成割合
要支援1	21	24	45	18.52%
要支援2	23	30	53	21.81%
要介護1	35	28	63	25.93%
要介護2	28	12	40	16.46%
要介護3	12	5	17	7.00%
要介護4	9	10	19	7.82%
要介護5	1	5	6	2.47%
合計	129	114	243	100.00%



(6) 地域別通所リハビリテーション利用者内訳

地域	利用者数	構成割合
船橋市前原	71	29.22%
船橋市飯山満町	54	22.22%
船橋市芝山	20	8.23%
船橋市二宮	20	8.23%

船橋市高根台	11	4.53%
船橋市三山	11	4.53%
船橋市薬田台	10	4.12%
船橋市田喜野井	8	3.29%
船橋市中野木	7	2.88%
船橋市習志野台	5	2.06%
船橋市習志野	4	1.65%
船橋市駿河台	3	1.23%
船橋市新高根	2	0.82%
船橋市滝台町	2	0.82%
船橋市坪井東	2	0.82%
船橋市湊町	2	0.82%
船橋市夏見	1	0.41%
船橋市海神	1	0.41%
船橋市七林町	1	0.41%
船橋市若松	1	0.41%
船橋市松が丘	1	0.41%
船橋市大穴南	1	0.41%
船橋市滝台	1	0.41%
船橋市東船橋	1	0.41%
船橋市浜町	1	0.41%
船橋市北本町	1	0.41%
その他県外	1	0.41%
合計	243	100.00%

3 訪問リハビリテーション利用者

(1) 訪問リハビリテーション利用者数

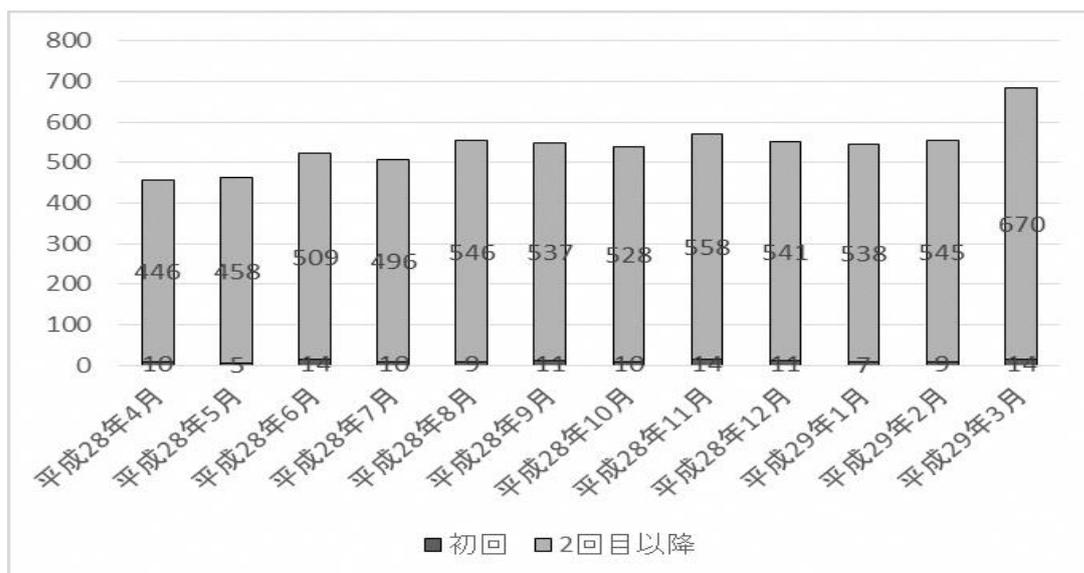
(単位：人)

	実利用者数	延べ利用者数
計	181	6,496

(2) 月別訪問リハビリテーション実績（延べ人数）内訳

診療日数	258
------	-----

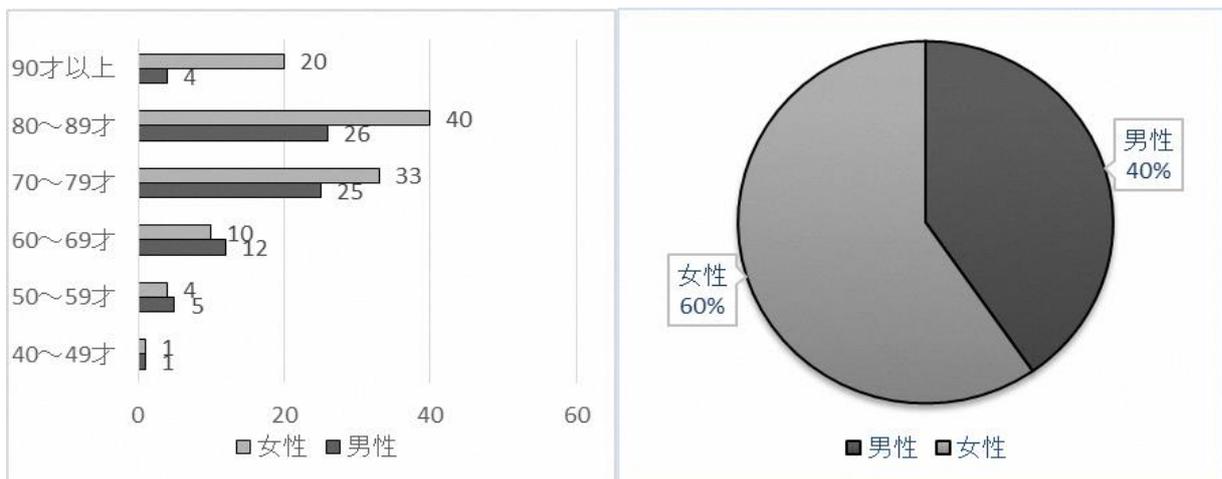
区分	初回	2回目以降	計
平成28年4月	10	446	456
平成28年5月	5	458	463
平成28年6月	14	509	523
平成28年7月	10	496	506
平成28年8月	9	546	555
平成28年9月	11	537	548
平成28年10月	10	528	538
平成28年11月	14	558	572
平成28年12月	11	541	552
平成29年1月	7	538	545
平成29年2月	9	545	554
平成29年3月	14	670	684
合計	124	6,372	6,496
1日平均利用者	0.5	24.7	25.2



(3) 年齢別・男女別訪問リハビリテーション利用者内訳

(単位：人)

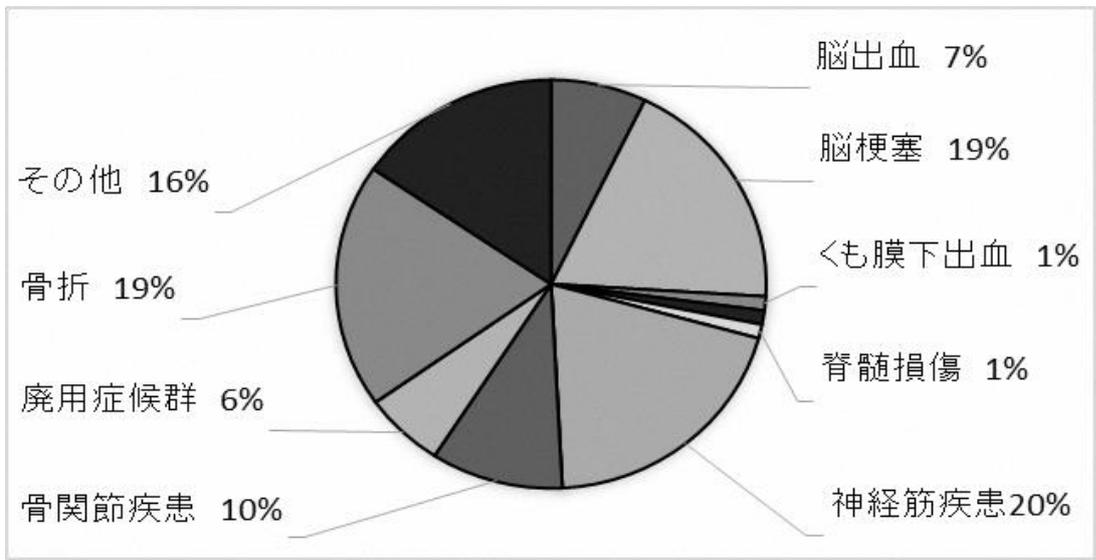
年齢	男性	女性	合計	構成割合
20才未満	0	0	0	0.00%
20～29才	0	0	0	0.00%
30～39才	0	0	0	0.00%
40～49才	1	1	2	1.10%
50～59才	5	4	9	4.97%
60～69才	12	10	22	12.15%
70～79才	25	33	58	32.04%
80～89才	26	40	66	36.46%
90才以上	4	20	24	13.26%
合計	73	108	181	100.00%
平均年齢	76.2	80.3	78.7	



(4) 疾患別訪問リハビリテーション利用者内訳

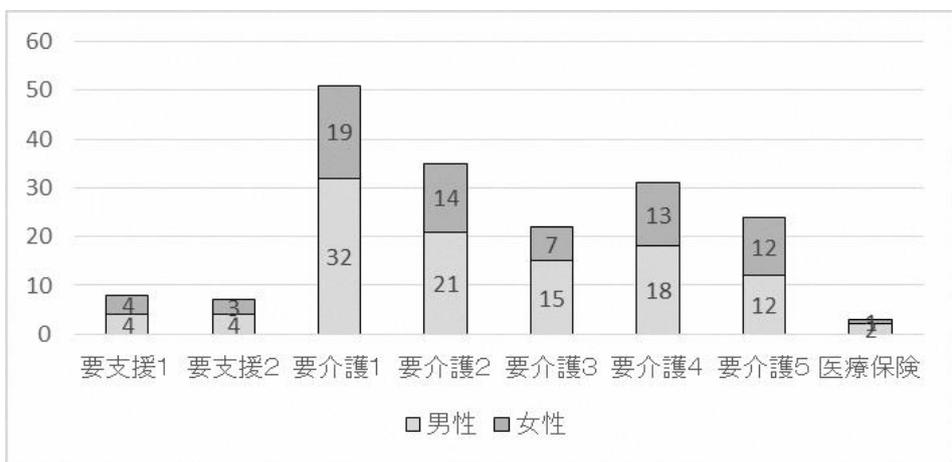
疾患名	利用者数	構成割合
脳出血	13	7.18%
脳梗塞	34	18.78%
くも膜下出血	2	1.10%
頭部外傷	2	1.10%
脊髄損傷	2	1.10%
神経筋疾患	36	19.89%
脳腫瘍	0	0.00%
骨関節疾患	18	9.94%
廃用症候群	11	6.08%
骨折	35	19.34%

その他	28	15.47%
合計	181	100.00%



(5) 介護度別分類

	男性	女性	合計	構成割合
要支援1	4	4	8	4.42%
要支援2	4	3	7	3.87%
要介護1	32	19	51	28.18%
要介護2	21	14	35	19.34%
要介護3	15	7	22	12.15%
要介護4	18	13	31	17.13%
要介護5	12	12	24	13.26%
医療保険	2	1	3	1.66%
合計	108	73	181	100.00%



(6) 地域別訪問リハビリテーション利用者内訳

地域	利用者数	構成割合
船橋市前原	38	20.99%
船橋市習志野台	23	12.71%
船橋市飯山満町	14	7.73%
船橋市薬円台	13	7.18%
船橋市田喜野井	12	6.63%
船橋市三山	11	6.08%
船橋市高根台	10	5.52%
船橋市芝山	10	5.52%
船橋市二宮	9	4.97%
船橋市西習志野	7	3.87%
船橋市松が丘	6	3.31%
船橋市中野木	5	2.76%
船橋市習志野	2	1.10%
船橋市駿河台	2	1.10%
船橋市坪井西	2	1.10%
船橋市東船橋	2	1.10%
船橋市夏見	1	0.55%
船橋市宮本	1	0.55%
船橋市高根町	1	0.55%
船橋市七林	1	0.55%
船橋市若松	1	0.55%
船橋市滝台	1	0.55%
船橋市滝台町	1	0.55%
船橋市緑台	1	0.55%
その他県外	7	3.87%
合計	181	100.00%

4 訪問看護利用者

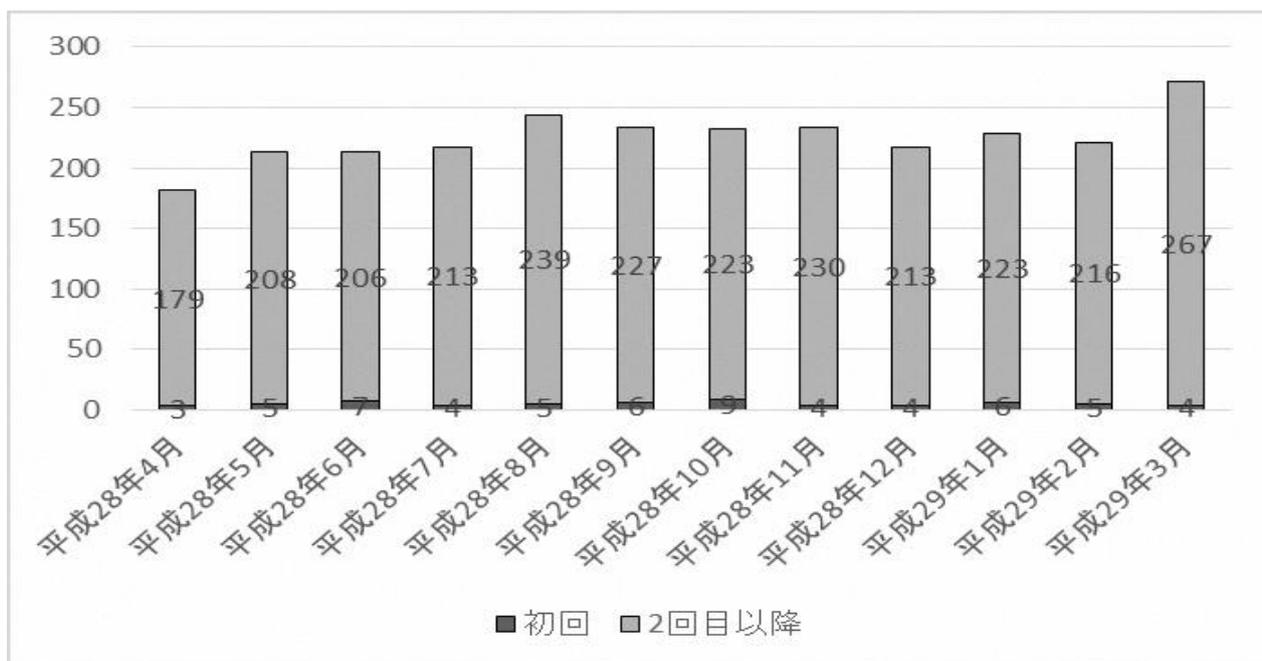
(1) 訪問看護利用者数

	実利用者数	延べ利用者数
計	75	2,706

(2) 月別訪問看護利用者（延べ人数）内訳

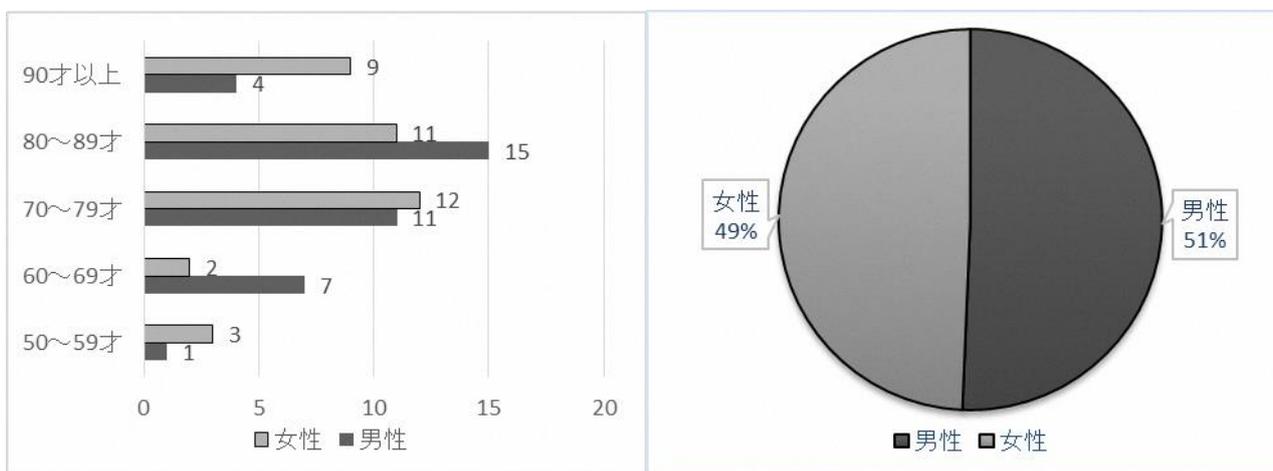
診療日数	258
------	-----

区分	初回	2回目以降	計
平成28年4月	3	179	182
平成28年5月	5	208	213
平成28年6月	7	206	213
平成28年7月	4	213	217
平成28年8月	5	239	244
平成28年9月	6	227	233
平成28年10月	9	223	232
平成28年11月	4	230	234
平成28年12月	4	213	217
平成29年1月	6	223	229
平成29年2月	5	216	221
平成29年3月	4	267	271
合計	62	2,644	2,706
1日平均利用者	0.2	10.2	10.5



(3) 年齢別・男女別訪問看護利用者内訳

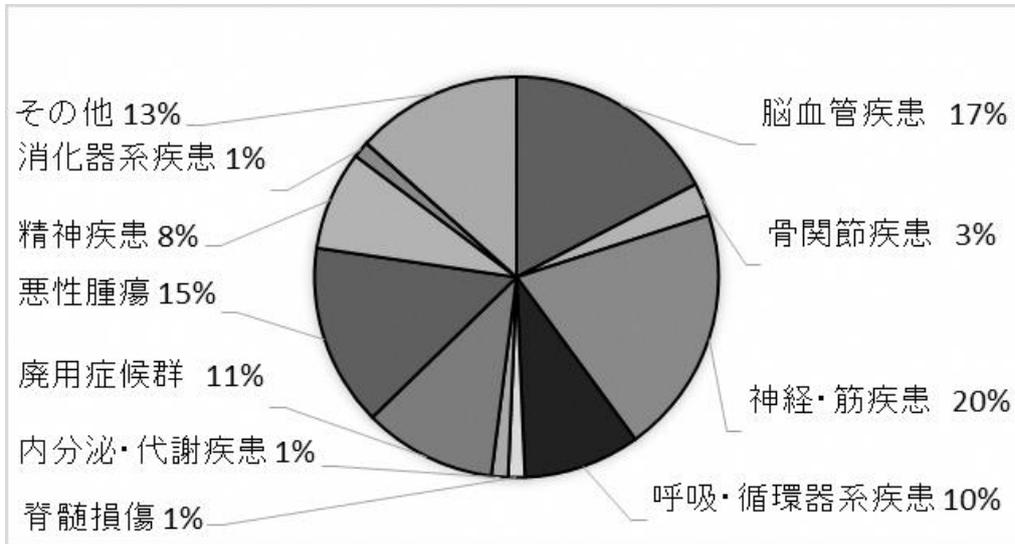
年齢	男性	女性	合計	構成割合
20才未満	0	0	0	0.00%
20～29才	0	0	0	0.00%
30～39才	0	0	0	0.00%
40～49才	0	0	0	0.00%
50～59才	1	3	4	5.33%
60～69才	7	2	9	12.00%
70～79才	11	12	23	30.67%
80～89才	15	11	26	34.67%
90才以上	4	9	13	17.33%
合計	38	37	75	100.00%
平均年齢	78.9	80.3	79.6	



(4) 疾患別訪問看護利用者内訳

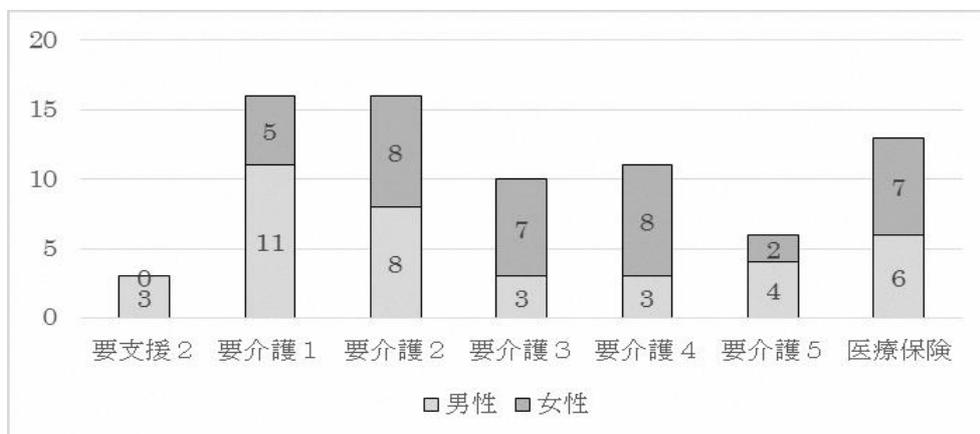
疾患名	利用者数	構成割合%
脳血管疾患	13	17.33%
骨関節疾患	2	2.67%
神経・筋疾患	15	20.00%
呼吸・循環器系疾患	7	9.33%
脊髄損傷	1	1.33%
内分泌・代謝疾患	1	1.33%
廃用症候群	8	10.67%
悪性腫瘍	11	14.67%
精神疾患	6	8.00%
消化器系疾患	1	1.33%
内科系疾患	0	0.00%

泌尿器系疾患	0	0.00%
その他	10	13.33%
合計	75	100.00%



(5) 介護度別分類

	男性	女性	合計	構成割合
要支援 1	0	0	0	0.00%
要支援 2	3	0	3	4.00%
要介護 1	11	5	16	21.33%
要介護 2	8	8	16	21.33%
要介護 3	3	7	10	13.33%
要介護 4	3	8	11	14.67%
要介護 5	4	2	6	8.00%
医療保険	6	7	13	17.33%
合計	38	37	75	100.00%



(6) 地域別訪問看護利用者内訳

地域	利用者数	構成割合%
船橋市前原	19	25.33%
船橋市習志野	9	12.00%
船橋市二宮	8	10.67%
船橋市飯山満町	5	6.67%
船橋市薬円台	5	6.67%
船橋市高根台	3	4.00%
船橋市松が丘	3	4.00%
船橋市本町	3	4.00%
船橋市夏見	2	2.67%
船橋市宮本	2	2.67%
船橋市金杉	2	2.67%
船橋市緑台	2	2.67%
船橋市金杉台	1	1.33%
船橋市金堀町	1	1.33%
船橋市三咲	1	1.33%
船橋市三山	1	1.33%
船橋市習志野台	1	1.33%
船橋市新高根	1	1.33%
船橋市西習志野	1	1.33%
船橋市滝台	1	1.33%
船橋市中野木	1	1.33%
船橋市坪井東	1	1.33%
船橋市田喜野井	1	1.33%
船橋市浜町	1	1.33%
その他県内	0	0.00%
合計	75	100.00%

5 地域リハビリテーション拠点事業

平成28年度の地域リハビリテーション拠点事業実績は別添資料の通り実施した。開催した内容としては、リハビリ関係者向け講演会 計2回、リハビリ関係者向け研修会 計15回、市民向け講演会 計2回、市民向け研修会 計2回を実施し、開催回数は合計21回実施し参加者の総数は1,764名であった。

(資料3 地域リハビリテーション拠点事業実績)

6 リハビリ事業

(1) パワーリハビリ教室

① パワーリハビリ教室 利用者数

	延べ利用者数
計	844

② 月別パワーリハビリ教室（延べ人数）内訳

実日数	78
-----	----

(単位：人)

区分	利用者数	登録者数
平成28年4月	67	9
平成28年5月	35	9
平成28年6月	125	15
平成28年7月	108	15
平成28年8月	64	15
平成28年9月	66	10
平成28年10月	57	9
平成28年11月	41	9
平成28年12月	113	15
平成29年1月	102	15
平成29年2月	66	14
平成29年3月	0	0
合計	844	—
1日平均利用者	10.8	—

(2) パワーリハビリフォローアップ

①パワーリハビリフォローアップ 利用者数

	延べ利用者数
計	7,319

②月別パワーリハビリフォロー（延べ人数）内訳

実日数	244
-----	-----

(単位：人)

区分	利用者数	登録者数
平成28年4月	416	154
平成28年5月	413	137
平成28年6月	642	161
平成28年7月	633	157
平成28年8月	612	155
平成28年9月	702	162
平成28年10月	624	160
平成28年11月	635	160
平成28年12月	614	164
平成29年1月	593	162
平成29年2月	645	159
平成29年3月	790	170
合計	7,319	—
1日平均利用者	30.0	—

(3) プールリハビリ

①プールリハビリ 利用者数

	延べ利用者数
計	4,188

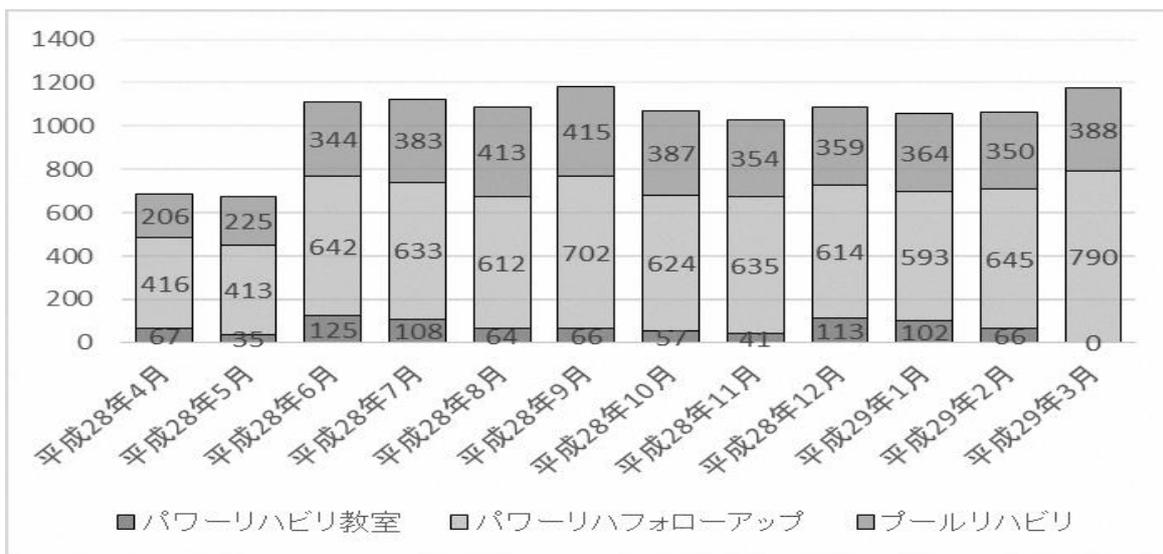
②月別プールリハビリ（延べ人数）内訳

実日数	243
-----	-----

(単位：人)

区分	利用者数	登録者数
平成28年4月	206	103
平成28年5月	225	82
平成28年6月	344	109
平成28年7月	383	113
平成28年8月	413	122

平成28年9月	415	123
平成28年10月	387	127
平成28年11月	354	130
平成28年12月	359	129
平成29年1月	364	128
平成29年2月	350	127
平成29年3月	388	126
合計	4,188	—
1日平均利用者	17.2	—



Ⅲ 収支状況

平成28年度における船橋市リハビリセンターの収支は以下の通りである。

単位：千円

	診療所	訪問看護	リハビリ事業	地域リハ 拠点事業	施設管理	平成28年度 合計
医業収益						
利用料	0	0	3,088	0	0	3,088
委託料	0	0	30,880	0	0	30,880
医療・外来収益	23,324	9,342	0	0	0	32,666
介護・外来収益	100,267	15,420	0	0	0	115,687
受託検査・施設利用収益	0	0	0	0	0	0
訪問看護収益	0	0	0	0	0	0
その他医業収益	149	207	0	10,898	23,868	35,122
計	123,741	24,969	33,968	10,898	23,868	217,444
保険等査定減	-5	0	0	0	0	-5
計	123,735	24,969	33,968	10,898	23,868	217,438
医業費用	143,934	33,713	36,221	11,753	21,473	247,094
医業利益	-20,199	-8,744	-2,253	-855	2,395	-29,656
本部配賦額	0	0	0	0	0	0
事業利益	-20,199	-8,023	-2,253	-856	2,395	-28,936
医業外収益						
受取利息配当金	0	0	0	0	0	0
有価証券売却益	0	0	0	0	0	0
患者外給食収益	0	0	0	0	0	0
補助金・負担金等	20,193	7,106	0	0	0	27,299
その他の医業外収益	6	20	1	0	3	30
計	20,199	7,126	1	0	3	27,329
医業外費用						
支払利息	0	0	0	0	0	0
有価証券売却損	0	0	0	0	0	0
患者外給食材料費	0	0	0	0	0	0
診療費減免	0	0	0	0	0	0
貸倒損失	0	0	0	0	0	0
貸倒引当金繰入額	0	0	0	0	0	0
資産に係る控除対象外消費税等	0	0	0	0	0	0
繰延消費税等償却	0	0	0	0	0	0
その他医業外費用	0	0	5	0	0	5
計	0	0	5	0	0	5
経常利益	0	-1,618	-2,258	-855	2,398	-2,333
特別利益						
固定資産売却益	0	0	0	0	0	0
施設設備補助金等収入	0	0	0	0	0	0
その他の特別利益	0	0	0	0	0	0
特別損失						
固定資産廃棄売却損	0	0	0	0	0	0
施設設備補助金等積立金繰入額	0	0	0	0	0	0
有価証券評価損	0	0	0	0	0	0
その他の特別損失	0	0	0	0	0	0
税引前当期純利益	0	-1,618	-2,258	-855	2,398	-2,333
法人税・住民税及び事業税負担額	0	0	0	0	0	0
税金等調整額	0	0	0	0	0	0
当期純利益	0	-1,618	-2,258	-855	2,398	-2,333

医業費用内訳

	診療所	訪問看護	リハビリ事業	地域リハ 拠点事業	施設管理	平成28年度 合計	
給与費	給料	92,773	22,001	28,221	6,975	149,970	
	賞与	15,105	2,710	758	1,131	19,704	
	賞与引当金繰入	0	0	0	0	0	
	退職給付費用	901	211	0	152	1,264	
	法定福利費	12,989	3,349	2,124	1,020	19,482	
計	121,768	28,271	31,103	9,278	0	190,420	
材料費	医薬品費	66	0	0	0	66	
	診療材料費	450	61	202	0	713	
	医療消耗器具備品費	171	30	129	0	330	
	給食用材料費	0	0	0	0	0	
	計	687	91	331	0	0	1,109
委託費	検査委託費	0	0	0	0	0	
	給食委託費	0	0	0	0	0	
	寝具委託費	0	0	0	0	0	
	医事委託費	0	0	0	0	0	
	清掃委託費	0	0	0	0	6,998	6,998
	保守委託費	309	0	0	0	101	410
	その他委託費	1,370	156	182	261	12,442	14,411
計	1,679	156	182	261	19,541	21,819	
設備関係費	減価償却費	1,689	1,528	113	13	13	3,356
	機器賃借料	0	0	0	0	0	0
	地代家賃	5,789	335	0	0	0	6,124
	修繕費	85	0	58	18	0	161
	固定資産税等	8	0	9	0	0	17
	機器保守費	1,944	324	0	0	0	2,268
	機器設備保険料	0	0	0	0	0	0
	車両関係費	2,307	714	0	3	0	3,024
計	11,822	2,901	180	34	13	14,950	
研修費	研究費	0	0	0	0	0	
	研修費	355	20	24	577	0	976
計	355	20	24	577	0	976	
経費	福利厚生費	69	5	68	1	0	143
	募集採用費	20	982	356	0	0	1,358
	旅費交通費	151	2	1	0	0	154
	職員被服費	2,025	324	253	50	0	2,652
	通信費	879	361	412	175	0	1,827
	広告宣伝費	0	0	0	175	0	175
	消耗品費	1,426	351	644	409	296	3,126
	消耗器具備品費	199	58	8	0	0	265
	図書費	122	2	0	0	0	124
	会議費	5	5	0	0	0	10
	水道光熱費	1,581	179	0	0	0	1,760
	賃借料	118	0	27	0	0	145
	保険料	188	16	83	0	0	287
	交際費	0	0	0	0	0	0
	諸会費	403	0	0	0	0	403
	租税公課	-76	-12	2,547	793	1,623	4,875
	貸倒損失	0	0	0	0	0	0
	貸倒引当金繰入	0	0	0	0	0	0
	支払手数料	289	0	2	0	0	291
	寄付金	0	0	0	0	0	0
雑費	224	1	0	0	0	225	
計	7,623	2,274	4,401	1,603	1,919	17,820	
合計	143,934	33,713	36,221	11,753	21,473	247,094	

また、前年に引き続き、全体会議や朝のミーティングを通じて、接遇マニュアル（私たちの約束）の読み合わせや身だしなみのチェックを行うなどして、意識付けを行った。

② 待合室に関するサービスの向上

外来の待合室については、受付のレイアウト変更をし来院する患者・利用者の様子を確認し易いよう工夫をし、患者、利用者の待ち時間に対する負担軽減に取り組んだ。

③ 患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上

患者・利用者のプライバシーへの配慮については、個人情報保護規程に基づく、個人情報の保護を徹底するようスタッフへ教育を行った。また、個人情報保護についての方針に関して、センター内へ掲示することや、介護サービス契約に個人情報保護について明記し、センターの方針を周知した。

④ リハビリテーションの提供に当たっては、職員の技術向上研修等で満足度の向上を目指した。

⑤ 御意見箱の設置

満足度調査の結果だけでなく、センター内に御意見箱を設置し、利用者の御意見を傾聴し、真摯に対応する体制を構築したことで、利用者の満足度の向上を図った。

平成28年度の実績に基づく今後の改善点について

外来患者への満足度調査においては、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上となり目標を達成した。また「満足」のみの割合についても、60%以上で目標は達成された。リハビリテーションの提供に当たっては、身体機能・日常生活動作において「良くなる」と「現状が維持できる」の割合が身体機能の変化が90.0%、日常生活動作が89.5%で目標（85%以上）を達成し、効果的な質の高いリハビリテーションが実施できたことが裏付けられる。

平成29年度も更なる満足度の向上を目指し取り組んでいく。

II 通所リハビリ利用者について

目標2 各利用者がリハビリテーションマネジメントにおいて設定した目標の達成率

平成28年度目標：

平成28年4月から平成29年3月において指定通所リハビリテーションの提供を終了した者のうち、リハビリテーションマネジメントにおいて目標とした取り組みを実施した者の占める割合が100分の5以上とする。

平成28年度実績：

① 平成28年4月から平成29年3月の評価対象期間における通所リハビリテーション終了者数：45名

② ①のうちリハビリテーションマネジメントにおいて目標とした取り組みを実施し、リハビリの提供を終了した利用者数：13名

※通所介護、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護、介護予防・日常生活支援総合事業における通所事業や一般介護予防事業、また、居宅における家庭での役割を担うことができ通所リハビリテーションを終了した数。

内訳)

・目標達成 10名

リハビリを開始するにあたっての目標と達成事例

開始目標	終了時の達成状況
痛みがなくなるってことは難しいが、楽に外出ができるようになりたい。	身体状況良く、自分で運動もできるようになった
杖歩行で外出（通院など）できるようになりたい	近所のスーパー、医院まで行けるようになった
外出の機会をもつ	ほぼ毎日昼食を買いにスーパーまで歩き、必要に応じてバス等使用し出かける事もある
腰椎椎間板ヘルニアの受傷前の自立した生活に戻る	目標だった畑作業再開や腰痛の出現が無いよう自主トレの獲得も出来た
坐骨神経痛再出現。右臀部の痛みから左で頑張ったためか左側に痛みも出ている。バランスよく筋肉をつけて痛みを軽減させたい	臀筋群の柔軟性向上し坐骨神経痛による疼痛は消失。お孫さんとウォータースライダーをして楽しむ事ができた
以前のように電車やバスに乗って外出できるようになりたい	現在行なっているストレッチや筋トレを継続することにより友人との旅行が可能となる
杖を使わないで散歩に行きたい	前原駅の方に買い物に行ってきた。たくさん買い物をしたけれどリュックを背負って一人で行くこ

とができた。

- ・通所介護への移行 3名

③ ①に占める②の割合：28.9%

目標達成に対する活動状況について

- ①介護報酬制度によるリハビリテーションマネジメントに基づき（平成27年3月27日 老老発0327 第3号 リハビリテーションマネジメント加算等に関する基本的な考え方並びにリハビリテーション計画書等の事務処理手順及び様式例の提示について）通所リハビリテーションを利用する利用者全てにリハビリテーション計画書を作成し、利用者の健康状況、心身機能、活動の参加状況を計画書に記録した。
- ②社会参加へ移行ができるよう利用者のリハビリテーション計画を基に、リハビリテーションを提供することで、利用者の日常生活動作（ADL）と外出や買い物等の手段的生活動作（IADL）が向上し、社会参加に資する他のサービス等に移行できるなど、質の高いリハビリテーションを提供した。
- ③リハビリを担当する職員が、終了した利用者に対して、その居宅を訪問し、リハビリテーション計画書の項目を活用しながら、リハビリテーションの提供を終了した時と比較して、ADLとIADLが維持又は改善していることを確認した。
- ④また、居宅に訪問しADLとIADLの状況を確認することが困難な場合は、担当の介護支援専門員から居宅サービス計画の提供を依頼するなど、社会参加に資する取組の実施を確認するとともに、電話等の手段を用いて、ADLとIADLの情報を確認した。
- ⑤終了した利用者の状態の悪化又はその恐れがある場合や参加が維持されていなかった場合は、利用者及び家族に適切な助言を行い、医師又は介護支援専門員へ情報を提供した。

平成28度の実績に基づく今後の改善点について

通所リハビリを終了した利用者において、リハビリテーションマネジメントの目標を達成した割合は28.9%となり、目標（5%以上）を達成した。質の高いリハビリテーションを提供し利用者のADLとIADLについて維持・向上できたことが裏付けられる。

平成29年度も同様に取り組んでいく。

目標3 介護職員の総数のうち、介護福祉士の占める割合100分の50以上

平成28年度目標：

介護職員の総数のうち、介護福祉士の占める割合を100分の50以上とする。

平成28年度実績：

介護福祉士の占める割合：100%

(全体の介護職員数2人　うち介護福祉士2人)

目標達成に対する活動状況について

- ①中重度の要介護者や認知症高齢者に対応できるケア体制を確保した。
- ②法人本部に設置する教育研修局を通じ、船橋市リハビリセンター以外の拠点からの人事異動を可能にし、無駄のない配置に努めた。
- ③介護サービスに従事する職員を対象とした、「在宅研修」を実施し、通所リハビリにおける介護職の役割について学びを深める機会を設けた。

平成28年度の実績に基づく今後の改善点について

介護ニーズへの対応や質の高い介護サービスを確保する観点から、介護職員の安定的な確保を図るとともに、更なる資質向上への取り組みを推進した。結果、介護福祉士の占める割合は100%の実績であり、非常に質の高い介護サービスが提供できたと言える。

平成29年度も引き続き、在宅生活を支援するため介護サービスの充実を図る目的で介護福祉士を3名（1名増員）にし実施していく。

目標4 利用者に直接提供する職員のうち、勤続年数3年以上の者の占める割合100分の30以上

平成28年度目標：

利用者に直接提供する職員のうち、勤続年数3年以上のスタッフが占める割合を100分の30以上とする。

平成28年度実績：

勤続年数3年以上の者の占める割合：94.1%

(全体の職員数17人　うち勤続年数3年以上の職員数16人)

経験年数	人数
3年未満	1人
3～5年	5人
5～10年	10人
10年以上	1人

目標達成に対する活動状況について

- ①法人本部に設置する教育研修局を通じ、船橋市リハビリセンター以外の拠点からの人事異動を可能にし、回復期リハビリテーション病棟で法人の理念や、基礎的なリハビリテーション技術を取得した職員を配置することに努めた。
- ②介護サービスに従事する職員を対象とした、「在宅研修」を実施し、通所リハビリにおける専門職の役割について学びを深める機会を設けた。

平成28年度の実績に基づく今後の改善点について

リハビリテーションニーズへの対応や質の高い介護サービスを確保する観点から、リハビリスタッフの安定的な確保を図るとともに、更なる資質向上への取り組みを推進した。結果、直接従事する職員のうち勤続年数3年以上の占める割合は94.1%の実績となり、一定以上の質が保たれた介護サービスが提供できたと言える。

平成29年度も引き続き、在宅生活を支援するための介護サービスの充実を図る。

目標5 利用者アンケートによる患者満足度

平成28年度目標：

1. 通所リハビリ利用者へのアンケート調査項目中、以下の①から③について、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」のみの割合がいずれも60%以上であること。
 - ①当センターのリハビリテーションについてご満足いただけましたか。
 - ②職員の対応についてご満足いただけましたか。
 - ③通所リハビリのスケジュールについてご満足いただけましたか。
2. 通所リハビリ利用者へのアンケート調査項目中、以下の④から⑤について、「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合が85%以上であること。
 - ④リハビリを受けることで、あなたの身体機能はどのようになると思っていますか。
 - ⑤リハビリを受けることで、日常生活を送る上での動作（移動（活動範囲の拡大も含む）、食事、排泄、入浴、着替え等）はどのようになると思っていますか。

平成28年度実績：

1. 通所リハビリ利用者へのアンケート①から③の満足度
 - ①リハビリテーションの質・技術について
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 93.2 %
「満足」のみの割合 : 56.8 %
 - ②職員の対応について
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 97.7 %
「満足」のみの割合 : 85.2 %
 - ③通所リハビリのスケジュールについて
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 81.8 %
「満足」のみの割合 : 59.1 %
2. 通所リハビリ利用者へのアンケート④から⑤の満足度
 - ④リハビリによる身体機能の変化について
「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合 : 94.7 %
 - ⑤リハビリによる日常生活の動作について
「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合 : 92.4 %

目標達成に対する活動状況について

- ①職員の対応に関する事項の満足度の向上
サービス向上委員会を設置し、輝生会接遇推進本部立会いのもとセンター内ラウンドを月一回実施した。委員会では平成28年度の接遇目標を作成し、全体会議にて周知した他、接遇の達成度を振り返りにより実施した。また、前年に引き続き、全体会議や朝のミーティングを通じて、接遇マニュアル（私たちの約束）の読み合わせや身だしなみのチェックを行うなどして、意識付けを行った。
- ②患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上
患者・利用者のプライバシーへの配慮については、個人情報保護規程に基

づく、個人情報の保護を徹底するようスタッフへ教育を行った。また、個人情報保護についての方針に関して、センター内へ掲示することや、介護サービス契約に個人情報保護について明記し、センターの方針を周知した。

③リハビリテーションの提供に当たっては、職員の技術向上研修等で満足度の向上を目指した。

④御意見箱の設置

満足度調査の結果だけでなく、センター内に御意見箱を設置し、利用者の御意見を傾聴し、真摯に対応する体制を構築したことで、利用者の満足度の向上を図った。

平成28年度の実績に基づく今後の改善点について

通所リハビリ利用者への満足度調査（平成28年度目標①～③）においては、「満足」と「やや満足」を足した割合が80%以上となり目標を達成した。

また「満足」のみの割合では「②職員の対応について」は85.2%と目標（60%以上）を達成した。

「①リハビリテーションの質・技術について」は56.8%、「③通所リハビリのスケジュールについて」は59.1%と、60%を下回った。利用者からは、回数や時間帯に関する要望があげられた。

リハビリテーションの提供に当たっては、身体機能・日常生活動作において「良くなる」と「現状が維持できる」の割合が身体機能は94.7%、日常生活動作は92.4%で目標（85%以上）を達成した。効果的で質の高いリハビリテーションが実施できたことが裏付けられる。

平成29年度も更なる満足度の向上を目指し取り組んでいく。

Ⅲ 訪問リハビリ利用者について

目標6 各利用者がリハビリテーションマネジメントにおいて設定した目標の達成率

平成28年度目標：

平成28年4月から平成29年3月において指定訪問リハビリテーションの提供を終了した者のうち、リハビリテーションマネジメントにおいて目標とした取り組みを実施した者の占める割合が100分の5以上とする。

平成28年度実績：

① 平成28年4月から平成29年3月の評価対象期間における指定訪問リハビリテーション終了者数：60名

② ①のうちリハビリテーションマネジメントにおいて目標とした取り組みを実施し、リハビリの提供を終了した利用者数：25名

※通所リハビリテーション、通所介護、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護、介護予防・日常生活支援総合事業における通所事業や一般介護予防事業、また、居宅における家庭での役割を担うことができ、訪問リハビリテーションを終了した数。

内訳)

・目標達成 6名

リハビリを開始するにあたっての目標と達成事例

開始目標	終了時の達成状況
一人暮らしであり、転倒に対する不安あり。圧迫骨折の既往から、身体の動きに制限があり、自分でも思うように身体が動かない状態。転倒リスクは高く、サービスを利用しながら、本人の希望である自宅での生活が継続できる様に支援。	ADLは入浴以外自立(シャワー浴は自立)され、週1回のデイサービス、週1回タクシーに乗って近所のスーパーまでの外出が出来ている。身体機能としてはT字杖歩行にて自宅周囲自立レベル。
右下肢の痛みがない生活を送りたい。	家庭での役割は、家事など行なっている。下肢の疼痛は寒くなってきたため強くなっているが、自身で揉んだりストレッチをしていることで自制内。買物や散歩などの外出は継続できており、T字杖で行っている。
定期的に外出する機会を設け、心身機能が向上し元気に過ごせるよう支援	日中の生活は同居の家族の協力(おかずを貰う)を得ながら自立。外出頻度は変わらず、食事を買いにほぼ毎日近隣のスーパーに出かけている。
・外出がひとりでできるようになりたい ・調理がひとりでできるようになりたい	外出は一人でいかれ、駅周辺への買い物も継続できている。民間の運動施設に毎日行かれ運動を続けている。

<p>い</p> <p>一人で歩くことに不安があるので脚力をつけたい</p> <p>長期目標：一人で外出できる</p> <p>短期目標：外出する機会を持つ</p>	<p>家事は毎日台所に立っている。</p> <p>調理など家事動作は継続。</p> <p>家族と一緒に外出を行なっている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・通所リハビリへ移行 15名 ・通所介護への移行 4名 <p>③ ①に占める②の割合：41.7%</p>	
<p>目標達成に対する活動状況について</p> <p>①介護報酬制度によるリハビリテーションマネジメントに基づき（平成27年3月27日 老老発0327 第3号 リハビリテーションマネジメント加算等に関する基本的な考え方並びにリハビリテーション計画書等の事務処理手順及び様式例の提示について）訪問リハビリテーションを利用する利用者全てにリハビリテーション計画書を作成し、利用者の健康状況、心身機能、活動の参加状況を計画書に記録した。</p> <p>②社会参加へ移行ができるよう利用者のリハビリテーション計画を基に、リハビリテーションを提供することで、利用者のADLとIADLが向上し、社会参加に資する他のサービス等に移行できるなど、質の高いリハビリテーションを提供した。</p> <p>③リハビリを担当する職員が、終了した利用者に対して、その居宅を訪問し、リハビリテーション計画書の項目を活用しながら、リハビリテーションの提供を終了した時と比較して、ADLとIADLが維持又は改善していることを確認した。</p> <p>④また、居宅に訪問しADLとIADLの状況を確認することが困難な場合は、担当の介護支援専門員から居宅サービス計画の提供を依頼するなど、社会参加に資する取組の実施を確認するとともに、電話等の手段を用いて、ADLとIADLの情報を確認した。</p> <p>⑤終了した利用者の状態の悪化又はその恐れがある場合や参加が維持されていなかった場合は、利用者及び家族に適切な助言を行い、医師又は介護支援専門員へ情報を提供した。</p>	
<p>平成28度の実績に基づく今後の改善点について</p> <p>訪問リハビリを終了した利用者において、リハビリテーションマネジメントの目標を達成した割合は41.7%と、目標（5%以上）を達成した。質の高いリハビリテーションを提供し、利用者のADLとIADLについて維持・向上できたことが裏付けられる。</p> <p>平成29年度も平成28年度と同様に取り組んでいく。</p>	

目標7 利用者に直接提供する理学療法士・作業療法士又は言語聴覚士のうち、勤続年数3年以上の者の占める割合100分の30以上

平成28年度目標：

利用者に直接提供する理学療法士・作業療法士又は言語聴覚士のうち、勤続年数3年以上の者の占める割合を100分の30以上とする。

平成28年度実績：

理学療法士・作業療法士又は言語聴覚士のうち、勤続年数3年以上の者の占める割合：92.9%

全体の職員数	理学療法士	8人	(うち勤続年数3年以上の者)	7人
	作業療法士	5人	(うち勤続年数3年以上の者)	5人
	言語聴覚士	1人	(うち勤続年数3年以上の者)	1人

目標達成に対する活動状況について

- ①法人本部に設置する教育研修局を通じ、船橋市リハビリセンター以外の拠点からの人事異動を可能にし、回復期リハビリテーション病棟で法人の理念や、基礎的なリハビリテーション技術を取得した職員を配置することに努めた。
- ②介護サービスに従事する職員を対象とした、「在宅研修」を実施し、訪問リハビリにおける専門職の役割について学びを深める機会を設けた。

平成28年度の実績に基づく今後の改善点について

リハビリテーションニーズへの対応や質の高い介護サービスを確保する観点から、リハビリスタッフの安定的な確保を図るとともに、更なる資質向上への取り組みを推進した。結果、直接従事する職員のうち勤続年数3年以上の占める割合は92.9%の実績であり、一定以上の質が保たれたサービスが提供できたと言える。

平成29年度も引き続き、在宅生活を支援するためのサービスの充実を図る。

目標8 利用者アンケートによる患者満足度

平成28年度目標：

1. 訪問リハビリ利用者へのアンケート調査項目中、以下の①から③について、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」の割合がいずれも60%以上であること。
 - ①当センターのリハビリテーションについてご満足いただけましたか。
 - ②職員の対応についてご満足いただけましたか。
 - ③訪問のスケジュールについてご満足いただけましたか。
2. 訪問リハビリ利用者へのアンケート調査項目中、以下の④から⑤について、「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合が75%以上であること。
 - ④リハビリを受けることで、あなたの身体機能はどのようになると思っていますか。
 - ⑤リハビリを受けることで、日常生活を送る上での動作（移動（活動範囲の拡大も含む）、食事、排泄、入浴、着替え等）はどのようになると思っていますか。

平成28年度実績：

1. 訪問リハビリ利用者へのアンケート①から③の満足度
 - ①リハビリテーションの質・技術について
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 100.0 %
「満足」のみの割合 : 75.5 %
 - ②職員の対応について
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 100.0 %
「満足」のみの割合 : 87.8 %
 - ③訪問リハビリのスケジュールについて
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 87.7 %
「満足」のみの割合 : 65.3 %
2. 訪問リハビリ利用者へのアンケート④から⑤の満足度
 - ④リハビリによる身体機能の変化について
「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合 : 98.0 %
 - ⑤リハビリによる日常生活の動作について
「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合 : 94.0 %

目標達成に対する活動状況について

①職員の対応に関する事項の満足度の向上

法人の教育研修局が基軸となり、訪問リハビリに従事する全職員に対し、訪問療法士としての姿勢・態度、利用者・家族の生活の視点、情報収集・説明責任、訪問リハビリの基本的視点、リスク管理、多職種協同の具現化などについて指導を行った。

また、前年に引き続き、全体会議や朝のミーティングを通じて、接遇マニュアル（私たちの約束）の読み合わせや身だしなみのチェックを行うなどして、意識付けを行った。

②患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上

患者・利用者のプライバシーへの配慮については、個人情報保護規程に基づく、個人情報の保護を徹底するようスタッフへ教育を行った。また、個人情報保護についての方針に関して、センター内へ掲示することや、介護サービス契約に個人情報保護について明記し、センターの方針を周知した。

③リハビリテーションの提供に当たっては、職員の技術向上研修等で満足度の向上を目指した。

④満足度調査の結果だけでなく、訪問時に利用者の御意見を傾聴し、真摯に対応する体制を構築したことで、利用者の満足度の向上を図った。

平成28年度の実績に基づく今後の改善点について

訪問リハビリ利用者への満足度調査においては、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上となり目標を達成した。また「満足」のみの割合については、60%以上で目標は達成された。リハビリテーションの提供に当たっては、身体機能・日常生活動作において「良くなる」と「現状が維持できる」の割合が身体機能は98.0%、日常生活動作は94.0%で目標（75%以上）を達成した。効果的で質の高いリハビリテーションが実施できたことが裏付けられる。

平成29年度もさらなる満足度の向上を目指し取り組んでいく。

IV 訪問看護利用者について

目標9 利用者アンケートによる患者満足度

平成28年度目標：

訪問看護利用者へのアンケート項目の内、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」の割合がいずれも60%以上であること。

平成28年度実績：

①訪問看護の質・技術について

「満足」と「やや満足」を足した割合 : 95.3 %
「満足」のみ割合 : 90.5 %

②職員の対応について

「満足」と「やや満足」を足した割合 : 95.3 %
「満足」のみ割合 : 90.5 %

③訪問のスケジュールについて

「満足」と「やや満足」を足した割合 : 90.5 %
「満足」のみ割合 : 76.2 %

目標達成に対する活動状況について

①職員の対応に関する事項の満足度の向上

適宜、訪問看護ステーションの所長が職員の訪問に帯同し、訪問看護の内容や接遇を把握し指導を行った。また、前年に引き続き、全体会議や朝のミーティングを通じて、接遇マニュアル（私たちの約束）の読み合わせや身だしなみのチェックを行うなどして、意識付けを行った。

②患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上

患者・利用者のプライバシーへの配慮については、個人情報保護規程に基づく、個人情報の保護を徹底するようスタッフへ教育を行った。また、個人情報保護についての方針に関して、センター内へ掲示することや、介護サービス契約に個人情報保護について明記し、センターの方針を周知した。

③訪問看護の提供に当たっては、職員の知識・技術向上研修等で満足度の向上を目指した。また、利用者ごとに毎月発行する訪問看護計画・報告書を訪問看護ステーション所長が全例を確認し、職員の技術向上を図った。

平成28年度の実績に基づく今後の改善点について

「①訪問看護の質・技術について」と「②職員の対応について」においては、「満足」と「やや満足」を足した割合が95.3%、「満足」のみの割合についても90.5%となり、非常に高い割合をもって目標を達成することができた。

また、「③訪問看護のスケジュールについて」も目標を達成できた。

平成29年度も引き続き平成28年度と同様の活動を行い、更なる患者満足度の向上を図る。

V リハビリ事業利用者について

目標10 利用者アンケートによる患者満足度

平成28年度目標：

リハビリ事業利用者へのアンケート項目の内、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」の割合がいずれも60%以上であること。

平成28年度実績：

①職員の対応について

「満足」と「やや満足」を足した割合 : 100.0 %
「満足」のみの割合 : 91.1 %

②パワーリハビリについて

「満足」と「やや満足」を足した割合 : 97.2 %
「満足」のみの割合 : 54.3 %

③プールリハビリについて

「満足」と「やや満足」を足した割合 : 98.1 %
「満足」のみの割合 : 62.3 %

目標達成に対する活動状況について

①職員の対応に関する事項の満足度の向上

②患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上

職員の対応については目標5「外来患者・通所リハビリ・訪問リハビリ患者または利用者満足度」の活動状況に記載したとおり接遇研修を実施し、スタッフの接遇レベル向上を図った。

また、患者・利用者のプライバシーへの配慮についても、上記目標5と同様な対応をとり満足度の向上を図った。

③待ち時間に対する満足度の向上

利用者が増加したことにより、定員を超えて事業を実施する日が生じたことから、施設管理上の安全面に支障をきたす状況が予想されたため、船橋市と協議し、利用者に対し平成28年1月から1人週1回を上限とした利用回数の制限したが、平成28年度よりリハビリ事業管理者を設置。平成28年6月よりパワーリハビリフォロー利用枠を2枠増加することで利用を制限していた利用者への対応を実施した。

③御意見箱の設置

満足度調査の結果だけでなく、センター内に御意見箱を設置し、利用者の御意見を傾聴し、真摯に対応する体制を構築したことで、利用者の満足度の向上を図った。

平成28年度の実績に基づく今後の改善点について

リハビリ事業の満足度調査においては、「満足」と「やや満足」を足した割合のいずれも80%以上となり目標を達成した。パワーリハビリ・プールリハビリにおける満足のみ割合においては、パワーリハビリが54.3%（前年比+13.4%）、プールリハビリが62.3%（前年比+11.6%）といずれも前年比増加した。利用者増加により施設の安全性の確保を行う目的で、リハビリ事業の利用回数

を1人週1回を上限として制限していたが、管理スタッフを増員し利用枠を増加したことにより、好転したことが伺える。しかしながら、パワーリハビリについては目標である60%を下回った。利用者の意見としては、「利用できる日を増やして欲しい」等回数への要望があげられた。利用者のリハビリ事業への要望が高いことが感じられる。平成28年度の対応について、一定の評価を得ていることが利用者アンケートからも見て取れた。

平成29年度は、さらに事業実施枠を増加する施策と予約システムの導入により患者満足度の向上を図る。

2. 財務内容の改善に関する事項

目標11 診療所部門 経常収支比率

平成28年度目標： 診療所経常収支比率 90%以上

平成28年度実績： 診療所経常収支比率 86.0%

※各部門の指定管理料を除いた収入の合計を各部門の支出で合計で除して100を乗じて算出した割合で算出。

目標達成に対する活動状況について

①増患対策

- ・ 外来リハ件数（紹介件数）の増加対策として、船橋市リハビリセンタークリニック外来のご案内を配布し診察室へ設置依頼を行った。
- ・ 外来リハビリ患者の増加を目指し、回復期病棟を持つ近隣医療機関へ紹介を行った。また、同一医療法人である船橋市立リハビリテーション病院を退院し外来リハビリへ移行する対象者のフローを見直し、センターの空き枠情報を共有することでリハビリテーションのシームレスな連携を図った。
- ・ 通所リハビリ、訪問リハビリ利用者の増加を目指し、サービスエリア内の居宅介護支援事業所へ出向き情報交換を実施した。
- ・ 実際に行うリハビリの単位実績を把握する他、利用の増加を予測した予測推計を更新することで、リハビリテーションサービスの供給量の適正に努めた。
- ・ センター機関誌を有効活用し、地域・医師会・居宅介護支援事業所・在宅へセンターの情報発信を実施した。
- ・ 施設基準の見直しを実施し、平成29年3月よりリハビリテーションにおける脳血管等リハビリテーション料（1）を取得した。
- ・ ケアマネジャーむけ交流会を実施
「フィジカルアセスメント・利用者の健康状態について観察のポイントについて」を実施した。

②費用の削減

- ・ 患者・利用者の増加時にスムーズな人員配置が出来るよう、法人本部に設置する教育研修局を通じ、船橋市リハビリセンター以外の拠点からの人事異動を可能にし、できる限り無駄のない配置に努めた。

平成28年度の実績に基づく今後の改善点について

※外来患者述べ件数

平成29年3月実績 402件（前年同月対比 +148件）

※通所リハビリ延べ件数

平成29年3月実績 967件（前年同月対比 +323件）

※訪問リハビリ延べ件数

平成29年3月実績 684件（前年同月対比 +213件）

診療所の稼働状況は着実に増加傾向にある。

医業収益は123,735千円、医業費用は143,934千円。医業利益は-20,199千円。経常利益としては0千円。平成28年度診療所経常収支比率においては86.0%の実績となる。

平成29年度においては、平成28年度に取組んだ増患対策を継続する他、平成30年度診療報酬・介護報酬改定により予測される医療リハビリから介護サービスへのさらなる移行促進を勘案し、送迎枠の拡大や、PT2名、OT1名の増員による外来・通所リハビリの増患を図る。さらに診療所の土曜日の訪問リハビリ（介護保険）の運営を開始することで経常収支比率100%以上を計画する。

目標12 財務内容の改善に関する事項

平成28年度目標： 訪問看護経常収支比率 70%以上

平成28年度実績： 訪問看護経常収支比率 74.1%

※各部門の指定管理料を除いた収入の合計を各部門の支出で合計で除して100を乗じて算出した割合で算出。

目標達成に対する活動状況について

①増患対策

- ・同一医療法人である船橋市立リハビリテーション病院を退院し訪問看護へ移行する対象者のフローを作成し、回復期リハビリテーション病棟を退院する患者のシームレスな連携を図った。
また、移行した患者のフィードバックを定期的を実施し、訪問看護導入のメリットを共有した。
- ・サービスエリア内の居宅介護支援事業所へ出向き情報交換を実施した。
- ・ケアマネジャーむけ交流会を実施
「フィジカルアセスメント・利用者の健康状態について観察のポイントについて」を実施した。

②費用の削減

- ・計画的に人員配置を行うための募集採用費として、患者・利用者の増加時にスムーズな人員配置が出来るよう、法人本部に設置する教育研修局を通じ、船橋市リハビリセンター以外の拠点からの人事異動を可能にし、できる限り無駄のない配置に努めた。

平成28年度の実績に基づく今後の改善点について

※訪問看護延べ件数

平成29年3月実績 199件（前年同月対比 +68件）

医業収益は24,969千円、医業費用は33,713千円。医業利益は-8,744千円。経常利益としては-1,618千円。

平成28年度は74.1%と、目標（70%以上）を達成した。

平成29年度においては、さらに利用者の増加を図ることを計画し、経常収支比率100%以上を目標とする。

3. その他管理に関する重要事項

目標13 毎年度実施計画を立て地域リハビリテーション拠点事業を行なう

平成28年度目標：

地域リハビリテーション拠点事業に定めた事業内容を最低限行うこと。

平成28年度実績： 目標に対し全て達成した

目標達成に対する活動状況について

- | | |
|---|-------|
| ①リハビリセンターパンフレット作成 | 1回/年 |
| ②地域リハビリ推進用リーフレットの作成、配布 | 2回/年 |
| ③リハビリセンター刊行物の作成、配布 | 4回/年 |
| ④ホームページに最新情報を掲載 | 2回/年 |
| ⑤市民向け講演会開催 | 2回/年 |
| ⑥市民向け研修会開催 | 2回/年 |
| ⑦リハビリ関係者向け講演会開催 | 2回/年 |
| ⑧リハビリ関係者向け研修会開催 | 15回/年 |
| ⑨維持期リハビリの実態と潜在的なニーズの調査研究報告 | 3回/年 |
| ⑩船橋市地域リハビリテーション協議会、ひまわりネットワーク地域リハ推進委員会等のメンバーと積極的に連携を行う。 | |
| ⑪リハビリセンター内にリハビリ相談窓口を設置し、総合相談を行う。 | |

(資料3 地域リハビリテーション拠点事業実績)

平成28年度の実績に基づく今後の改善点について

【資料9】地域リハビリテーション拠点事業アンケートに示すとおり、勉強会の内容について5段階でアンケートを実施したところ、全アンケートの平均として「①とても良い」58%、「②良い」38%という結果となり、全体の「とても良い」と「良い」の割合が96%と高い満足度を得られた。

平成29年度も、以下の項目を継続して実施するとともに、高い満足度を得られるよう努力する。

- | | |
|---|------|
| ①リハビリセンターパンフレットの更新 | 1回/年 |
| ②地域リハビリ推進用リーフレットの作成、配布 | 2回/年 |
| ③リハビリセンター刊行物の作成、配布 | 4回/年 |
| ④ホームページに最新情報を掲載 | 2回/年 |
| ⑤市民向け講演会開催 | 2回/年 |
| ⑥市民向け研修会開催 | 2回/年 |
| ⑦リハビリ関係者向け講演会開催 | 2回/年 |
| ⑧リハビリ関係者向け研修会開催 | 3回/年 |
| ⑨維持期リハビリの実態と潜在的なニーズの調査研究報告 | 2回/年 |
| ⑩船橋市地域リハビリテーション協議会、ひまわりネットワーク地域リハ推進委員会等のメンバーと積極的に連携を行う。 | |
| ⑪リハビリセンター内にリハビリ相談窓口を設置し、総合相談を行う。 | |